Financial Report

第78期中間事業報告書　2008.4.1～2008.9.30

PHOTO:エクシーガ2.0GT

目次

2 ····株主のみなさまへ
3 ····営業の概況および業績の推移
4 ····部門別営業報告（連結）
5 ····連結貸借対照表
6 ····連結損益計算書
7 ····連結キャッシュ・フロー計算書
8 ···特集①「エクシーガ誕生」
10 ···特集②「フォレスター世界各国で評判に」
12 ···活動リポート
13 ···株主様工場見学会のご案内
14 ···中間配当金／株式事項
15 ···役 員

THANKS 50th 1958→2008
おかげさまで発売50周年。
SUBARUは次の時代へ。

SUBARU

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のことお喜び申しあげます。

ここに第78期の中間事業報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申しあげます。

当期の連結決算の業績につきましては、海外の自動車販売台数が伸長したことなどにより、売上高は過去最高となりました。利益面では、為替レート差や諸経費等の増加などにより営業利益はわずかながら減益となりましたが、経常利益は為替予約の効果等により増益となりました。なお、当期純利益は税金費用の増加などにより減益となりました。

このような状況の中、当中間配当につきましては、株主のみなさまに対する長期的安定配当の基本方針に基づき、1株につき4円50銭とさせていただきました。

さて、当社は、昨年2月に「すべてはお客様のために」をキーワードとして、平成19年度から平成22年度までの4年間を対象とした新中期経営計画を発表し、その達成に向けグループ一丸となって取組んでおります。この取り組みをより確実なものとするため、当社は、トヨタ自動車株式会社との提携関係強化と、これをてことした独自の事業構造改革を進めており、開発工数、生産能力などの経営資源を効率的に収益性の高いコア分野や将来の環境技術開発に傾斜配分しております。

新中計2年目となる本年、「快適・信頼の新しい走りと地球環境の融合」を追求した商品として昨年フルモデルチェンジを施した「インプレッサ」「フォレスター」が世界中で好評を博し、販売台数を大きく伸ばしております。さらに3月には乗用車用として世界初の「ボクサーディーゼルエンジン」を搭載したレガシィ・アウトバックを欧州市場に導入、6月には国内で多人数乗り車「エクシーガ」を発売、11月には提携強化の具現化としてダイハツ工業株式会社からOEM供給を受けコンパクトカー「デックス」を発売など、市場ニーズに合わせた商品投入を進めています。販売網の強化についても、モータリゼーションの発展が著しい新興市場のロシア、中国で前年を大幅に上回る販売実績を積み上げるなど、新中計は着実に進捗しています。

また、環境問題が注目される中、6月に開催された北海道・洞爺湖サミットに、走行中のCO_2排出量がゼロである電気自動車「プラグ イン ステラ コンセプト」を提供し、当社の将来への環境負荷低減の取組みを世界に向けて発信しました。なお、電気自動車については、来年2009年に試験的ではありますが、国内への市場導入を計画しております。

世界的な金融危機の実体経済への波及が懸念される状況ではありますが、当社は「選択と集中」をさらに進め、「スピード感」を持って乗り越え、お客様満足度の向上を図ることでスバルブランドを強化し、当社の経営ビジョンである「存在感と魅力ある企業」の実現を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成20年11月

代表取締役社長

森　郁夫

営業の概況および業績の推移

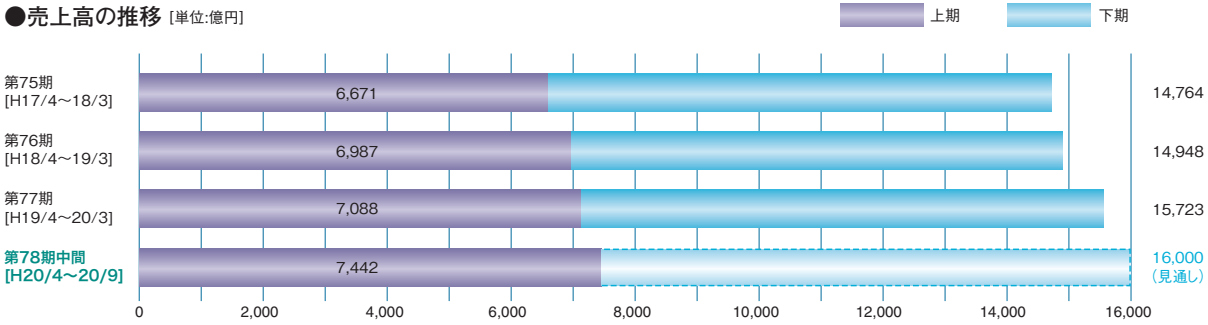
［営業の概況（連結）］

当期の連結売上高は、円高による為替レート差の影響があったものの、自動車事業部門において、海外市場の売上台数が伸長したことなどにより、7,442億円と前年同期に比べ354億円の増収となり、過去最高を記録しました。

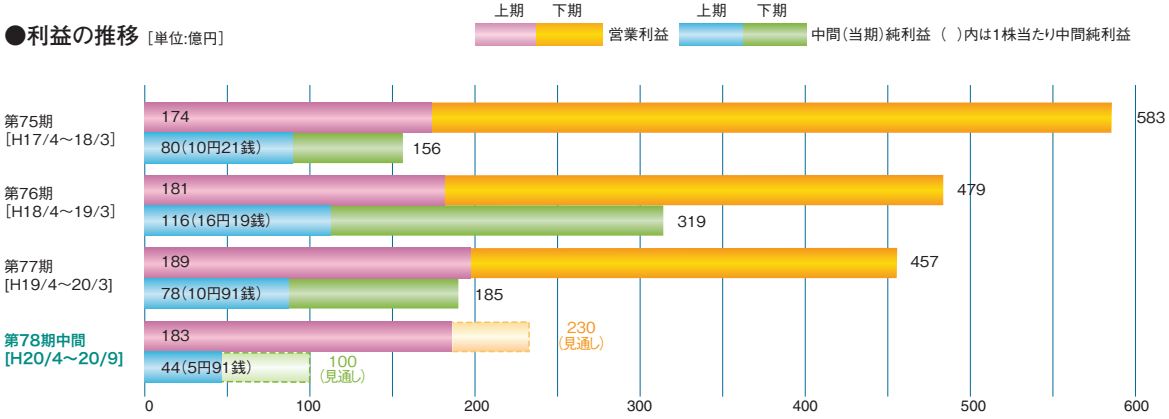
利益面につきましては、自動車事業部門における海外市場の売上台数増加が増益要因となったものの、円高による為替レート差に加え諸経費等の増加などにより、営業利益は183億円と前年同期に比べ6億円の減益となりました。また、経常利益につきましては、為替予約の効果等により、182億円と前年同期に比べ40億円の増益となりました。しかしながら、四半期純利益につきましては、税金費用が増加したことなどにより、44億円と前年同期に比べ34億円の減益となりました。

［連結の業績および推移］

●売上高の推移 ［単位:億円］



●利益の推移 ［単位:億円］



部門別営業報告（連結）

［自動車事業部門］

海外販売が好調に推移し、増収増益。

国内の登録車の販売につきましては、昨年12月に全面改良した新型「フォレスター」が堅調に推移したことに加え、6月に多人数乗り車「エクシーガ」を新規投入したことなどにより、売上台数では36千台と前年同期に比べ1千台（3.5%）の増加となりました。

一方、軽自動車につきましては、売上台数は58千台と前年同期に比べ6千台（9.8%）の減少となりました。

これらの結果、国内における売上台数の合計は94千台と前年同期に比べ5千台（5.1%）の減少となりました。

海外につきましては、北米市場の売上台数は、新型「フォレスター」の新車効果などにより91千台と前年同期に比べ1千台（0.8%）の増加となり、全体需要が減少する中、堅調に推移しました。

欧州につきましては、景気後退、燃料価格高騰、CO_2規制強化など、販売環境が悪化している中で、本年3月に投入した世界初の乗用車用ボクサーディーゼルエンジンを搭載した「レガシィ・アウトバック」や新型「フォレスター」の販売が順調に推移しました。引き続きロシアも販売が好調に推移したこともあり、売上台数は50千台と前年同期に比べ11千台（29.8%）の増加となりました。

また、豪州につきましては、売上台数は、21千台と前年同期に比べ1千台（5.0%）の増加となりました。

これらの結果、海外における売上台数の合計は、販売好調な中国、中南米の出荷が伸長したことも貢献し、188千台と前年同期に比べ16千台（9.3%）の増加となりました。

以上の結果、国内と海外の売上台数の合計は282千台と前年同期に比べ11千台（4.0%）の増加となり、全体の売上高は6,751億円と前年同期に比べ337億円の増収となりました。また、営業利益につきましても、151億円と19億円の増益となりました。

［産業機器事業部門］

国内・北米販売の減少により減収。

欧州・東南アジア向けエンジンの販売が好調だったものの、国内市場における電気機械用エンジンの販売が全体需要の落ち込みにより減少したことに加え、北米市場における発電機搭載用エンジンの販売が減少したことなどにより、売上高は205億円と前年同期に比べ13億円（5.8%）の減収となり、営業利益につきましても、3億円の損失と前年同期に比べ11億円の減益となりました。

［航空宇宙事業部門］

防衛省向け、民間向けともに好調で増収。

防衛省向け製品の無人機システムの納入や民間向け製品の小型ビジネスジェット機エクリプス500、中型ビジネスジェット機H4000の主翼の納入増が貢献し、売上高は423億円と前年同期に比べ20億円（5.0%）の増収となりました。営業利益につきましては円高による為替レート差の影響などにより、21億円と前年同期に比べ10億円の減益となりました。

［その他事業部門］

連結対象子会社化により増収増益。

新たに子会社2社を完全連結としたことなどにより、売上高は62億円と前年同期に比べ9億円（17.6%）の増収となり、営業利益につきましても、11億円と前年同期に比べ5億円の増益となりました。

連結貸借対照表

単位:百万円

科目	第78期第2四半期 連結会計期間末 平成20年9月30日現在	第77期 連結会計年度末 平成20年3月31日現在
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	61,758	67,053
受取手形及び売掛金	92,895	96,017
リース投資資産	26,133	—
有価証券	25,586	32,775
商品及び製品	135,683	133,175
仕掛品	101,939	100,133
原材料及び貯蔵品	38,885	27,701
繰延税金資産	23,633	26,486
短期貸付金	69,739	78,329
その他	51,549	62,504
貸倒引当金	△1,393	△1,346
流動資産合計	626,407	622,827
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	123,335	124,342
機械装置及び運搬具(純額)	111,829	113,876
土地	182,021	181,974
リース資産(純額)	33,062	47,906
建設仮勘定	17,062	10,161
その他(純額)	25,316	33,449
有形固定資産合計	492,625	511,708
無形固定資産		
のれん	4,107	18,500
その他	10,852	12,972
無形固定資産合計	14,959	31,472
投資その他の資産		
投資有価証券	60,174	70,107
長期貸付金	4,015	3,736
繰延税金資産	23,210	27,256
その他	33,620	32,369
貸倒引当金	△3,077	△3,087
投資その他の資産合計	117,942	130,381
固定資産合計	625,526	673,561
資産合計	1,251,933	1,296,388

[注]百万円未満四捨五入

科目	第78期第2四半期 連結会計期間末 平成20年9月30日現在	第77期 連結会計年度末 平成20年3月31日現在
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	213,040	229,780
短期借入金	175,047	165,886
コマーシャル・ペーパー	10,000	6,000
1年内償還予定の社債	—	30,000
未払法人税等	2,626	8,091
未払費用	53,949	61,954
賞与引当金	16,525	15,507
製品保証引当金	20,748	22,563
工事損失引当金	1,935	—
その他	65,369	58,261
流動負債合計	559,239	598,042
固定負債		
社債	60,000	60,000
長期借入金	31,852	42,661
退職給付引当金	42,255	40,993
役員退職慰労引当金	674	774
債務保証損失引当金	745	745
その他	56,227	58,750
固定負債合計	191,753	203,923
負債合計	750,992	801,965
純資産の部		
株主資本		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,098
利益剰余金	209,381	227,789
自己株式	△2,092	△40,538
株主資本合計	521,155	501,144
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10,449	13,716
為替換算調整勘定	△31,707	△21,463
評価・換算差額等合計	△21,258	△7,747
少数株主持分	1,044	1,026
純資産合計	500,941	494,423
負債純資産合計	1,251,933	1,296,388

連結損益計算書

単位:百万円

科目	第78期第2四半期 連結累計期間 自 平成20年4月 1日 至 平成20年9月30日	第77期第2四半期 連結累計期間 自 平成19年4月 1日 至 平成19年9月30日
売上高	744,201	708,817
売上原価	577,025	538,442
売上総利益	167,176	170,375
販売費及び一般管理費	148,830	151,470
営業利益	18,346	18,905
営業外収益		
受取利息(及び配当金)	1,546	2,533
受取配当金	483	—
不動産賃貸料	298	—
デリバティブ評価益	151	702
為替差益	305	—
持分法による投資利益	494	14
その他	1,001	2,206
営業外収益合計	4,278	5,455
営業外費用		
支払利息	1,696	2,088
為替差損	—	5,304
デリバティブ評価損	649	17
その他	2,095	2,789
営業外費用合計	4,440	10,198
経常利益	18,184	14,162
特別利益		
固定資産売却益	169	1,024
投資有価証券等売却益	—	1,412
前期損益修正益	—	1,567
退職給付制度改定益	654	—
貸付債権譲渡益	285	280
その他	1,113	107
特別利益合計	2,221	4,390
特別損失		
固定資産除売却損	2,134	1,207
減損損失	961	1,593
工事損失引当金繰入額	2,901	—
その他	55	—
特別損失合計	6,051	2,800
税金等調整前四半期純利益	14,354	15,752
法人税等	9,917	7,926
少数株主利益(損失)	41	6
四半期純利益	4,396	7,832

[注]百万円未満四捨五入

連結キャッシュ・フロー計算書

●キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金および現金同等物は、967億円と前連結会計年度末に比べ180億円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因、および前年同期に対する増減状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に対しては445億円減少し、175億円の収入となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純利益144億円および減価償却費369億円等による収入と、棚卸資産の増加225億円および仕入債務の減少168億円等の支出によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に対しては74億円減少し、337億円の支出となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得による支出（売却による収入との純額）290億円および投資有価証券の取得による支出86億円等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは前年同期に対しては342億円増加となり、22億円の収入となりました。その主な要因は、社債の償還による300億円および長期借入金の返済による98億円等の支出と、自己株式の売却による312億円および短期借入金の純増額86億円等の収入によるものです。

●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位:百万円

科目	第78期第2四半期 連結累計期間 自 平成20年4月 1日 至 平成20年9月30日	第77期第2四半期 連結累計期間 自 平成19年4月 1日 至 平成19年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,498	62,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 33,706	△ 26,295
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,158	△ 32,044
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 5,975	3,064
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	△20,025	6,729
現金及び現金同等物期首残高	114,649	99,060
連結範囲の変更に伴う増加額	2,045	190
現金及び現金同等物第2四半期会計期間末残高	96,669	105,979

［注］百万円未満四捨五入

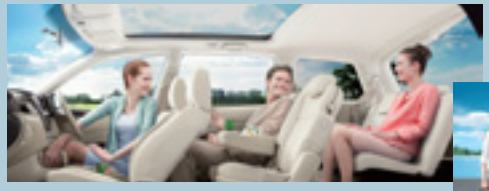
スバルの新型多人数乗り車「エクシーガ」誕生。

2008年6月17日、スバルの新型車「エクシーガ」が発表されました。「エクシーガ」は、国内で大きなシェアを持つ多人数乗り車市場に投入される、スバル待望の7人乗りモデルです。ここでは「7シーター パノラマ ツーリング」という商品コンセプトから、エクシーガの魅力を解説いたします。

EXCITING 7 SEATER,
EXIGA

7シーター　ゆとりと心地よさを、クルマに乗る人すべてに。

扱いやすいボディサイズでありながら、大人7人が乗っても快適さを実感できる、ゆとりある室内空間を確保しました。また、運転席からの視界の良さ、乗り降りのしやすさ、荷室の使い勝手など、機能性においても徹底的に快適さを追求し、数多く存在するライバル車に負けない、商品力を実現しました。

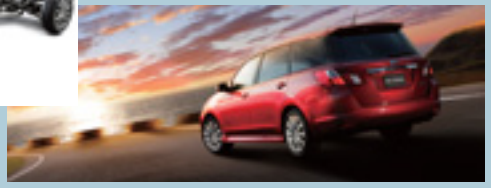


パノラマ　どの席に座っても、開放感あふれる快適なドライブを。

フロントシートからサードシートにかけて、着座位置が徐々に高くなる「シアターシートレイアウト」を採用する事により、3列目に座っていても見晴らしの良さを感じる事ができます。さらに、メーカーオプションであるパノラミックガラスルーフ装着車なら、より圧倒的な開放感を楽しむ事ができます。

ツーリング　安心と愉しさを、高度にバランスさせた走り。

素直なハンドリング、しなやかな乗り心地、そして優れたスペース効率を実現するSI-シャシー（SUBARU Intelligent-Chassis）を採用。7人がゆったり移動できる居住空間を確保しながら、スバルの7シーターとして、従来の多人数乗り車とは一線を画す、優れた安全性と走行性能を実現し、お客様の要望に応えます。



Topics　お客様からも高い評価をいただいてます。

エクシーガをご購入されたお客様のご意見を、一部をご紹介します。

「エクシーガは、視野が広く、運転しやすく、多機能をフルに活用できると思います。」

「女性から見てもモダンでセンスの良いスタイルで気に入りました。標準装備で、いろんな機能が付いているのも気に入りました。」

「エクシーガを購入しましたが、乗り心地、運転操作、どこも素晴らしいです。とてもよい買い物ができ家族全員大満足しています。これからも更に良い走りを追求していって下さい!」

特集② フォレスター世界各国で評判に

昨年末の国内発売を皮切りに、世界各国で導入の進むNewフォレスターが好調な販売を続けております。特に海外市場では、世界的に厳しい経済環境の中、売上台数増加のけん引役として大きな役割を果たしています。ここでは、その新型フォレスターの各市場における評価や販売状況をまとめます。

ロシア

新興市場として大きく発展をしているロシアには、7月から本格導入が始まりました。6月末に日本から市川PGMも参加して実施したプレス向け試乗会が大きな効果を見せ、立ち上がりから好調な販売を続けています。登録の始まった6月にロシア市場初の月間登録台数1,000台を突破すると、9月まで1,000台越えをキープしています。現在スバル車の販売の6割をフォレスターが占めており、今後も富裕層を中心に拡販を図っていきたいと考えています。

PHOTO:2.0XS

PHOTO:プレス向け試乗会の様子

欧　州

3月から市場導入が始まった欧州では、当初2.0ℓのガソリンエンジンモデルを導入しました。SUVらしいスタイリングや、広くなった室内空間が好評で、新規のお客様からも高い評価をいただいております。9月のパリサロンでは「フォレスター ディーゼル」をワールドプレミアしました。CO_2値への関心が高い欧州において、フォレスターへの注目はさらに高まることとなりますので、下期以降の販売台数拡大を図っていきたいと考えております。

PHOTO:(上)パリサロンでお披露目された「フォレスター ディーゼル」
(下)プレス向け試乗会の様子

中　国

本格参入から3年ほどと日の浅い中国市場では、フォレスターの存在が「SUBARU」の名を広めるのに大きく貢献しています。
3月3日のSUBARU発売50周年の記念日に北京の劇場で開催した「記者発表会」には、プレスだけではなく、特約店やユーザーも参加して「フォレスター」と「SUBARU」を広める火付け役となってくれました。現在でも多くのバックオーダーを抱えるほど、好調な販売を続けています。

PHOTO:北京の劇場で開催した記者発表会

PHOTO:ディーラー大会

米　国

米国における4～9月の販売台数は34,707台と前年度比151%を記録しました。これはボディサイズの拡大やデザインの良さが幅広い層から支持され、他銘客を多く取り込めたのが大きな要因です。また販売店からも高い評価をいただき、積極的な拡販で自銘代替も進んでいます。10月には米国で最も ポピュラーな自動車雑誌「MotorTrend」誌の「2009 Sport/Utility Of The Year」を受賞するなどプレス関係の評価も高く、今後の販売にも期待を寄せています。

ブラックレザー リミテッド

日　本

日本国内では、昨年12月の発表から約1ヶ月で4,285台を受注し、好調な導入となりました。その後も前年を上回る月別販売台数をキープしています。幅広い年齢層の他銘柄のお客様を獲得できている事も新型車の特徴となっています。8月にスバル発売50周年を記念した特別仕様車「ブラックレザー　リミテッド」も追加投入し、さらなる拡販を図っております。

PHOTO:(上)4月のディーラーミーティングの様子
(下)3月の記者発表試乗会の試乗風景

PHOTO:シンガポールの植物園で行なわれたローンチ

アジア・中南米

東南アジアの主要地域シンガポールでは、日本市場には導入されていない2.5ℓターボエンジンモデルが販売の中心となっており、5～9月で316台の販売を記録しました。
中南米の主要地域チリでは、エクステリアデザイン、パッケージングが評価され、若い女性ユーザー等新しい顧客層を開拓した結果、4～9月で541台と前年比でほぼ2倍の販売台数を達成しました。
今後もそうした高評価の部分をさらにアピールしながら、拡販に努めてまいります。

PHOTO:フォレスターがサポートカーに採用されたチリの自転車レースの様子

豪　州

新型車よりVDC[※1]、カーテンエアバッグが標準装備になったことに加え、ANCAP(豪州の衝突安全試験)で5つ星を獲得し、安全志向の高いお客様から支持を集めています。
また室内空間、SUVらしくなったデザイン、乗り心地が向上し、顧客層を拡大しており、8、9、10月ともに全SUVセグメントにおいてNo.1[※2]の販売を記録しております。
今後も若いファミリー層を中心に拡販を図ってまいります。

に展示されたフォレスター

※1　VDC(ビークル・ダイナミクス・コントロール):横滑りなど不安定な挙動を制御する装置)
※2　出典:オーストラリア自動車産業連邦会議所 ― FCAI
(The Federal Chamber of Automotive Industries)

活動リポート

電気自動車「プラグ イン ステラ コンセプト」を開発

地球温暖化や原油価格の高騰などによりエコカーの関心が高まる中、当社は、軽自動車ステラをベースにした電気自動車「プラグ イン ステラ コンセプト」を開発しました。本年7月7日～9日に開催された「北海道洞爺湖サミット」の期間中、サミットに参加する関係者の移動などに利用され注目を集めました。

「プラグ イン ステラ コンセプト」は、街乗りで使われることの多いコンパクトカーとしては十分な航続距離80kmを可能にしました。家庭用の電源から充電でき、約8時間でフル充電が可能、走行中の二酸化炭素の排出がなく、発電時を含めた二酸化炭素の排出量でもガソリン車の約1/4となっています。今後も、市販化も視野に入れて開発を進めていきます。

PHOTO:プラグ イン ステラ コンセプトと充電用のスタンド装置

スバル発売50周年 「スバル ファン! ファン! フェスティバル」開催

今年はスバル360を発売してから50周年を迎えました。これを記念したイベント「スバル ファン! ファン! フェスティバル」を、本年7月5、6日の横浜を皮切りに、全国主要8都市で開催しました。会場では現行スバル車の展示、電気自動車や運転支援システム「アイサイト」の体験コーナー、プロドライバーによるデモランやキャラクターショーなど幅広いプログラムが行われ、多くのお客様ご来場いただきました。さらに10月31日～11月2日には札幌で行われた「パイオニア カロッツェリア ラリージャパン2008」と同時開催され会場は大いに盛り上がりました。

PHOTO:ファン! ファン! フェスティバル横浜会場の様子

2008年国際航空宇宙展へ出展

当社航空宇宙カンパニーは、本年10月1日～5日に神奈川県・パシフィコ横浜展示ホールで開催された「2008年国際航空宇宙展」に出展しました。ブースの入口で小型ジェット機の原寸大模型と新型車エクシーガが来場者をお出迎えし、注目を集めていました。

当社が主翼の生産を担当している小型ビジネスジェット機「エクリプス500」や現在開発中で中央翼の設計・生産を担当しているボーイング社「787」に関する展示を始め、炭素繊維複合素材の加工技術の紹介なども行い、航空機開発の技術力を多くの方にアピールすることができました。

PHOTO:2008年国際航空宇宙展の様子

株主様工場見学会のご案内

今年度も株主様向けの工場見学会を開催いたします。ご同伴者様にもご見学いただけますよう、応募人数を50組100名様程度とさせていただきました。当社自動車事業部門の主力生産拠点である矢島工場と、同工場内の「スバル ビジターセンター」をご見学いただきます。

（なお、まことに恐れ入りますが、見学会当日は「スバル ビジターセンター」が改装中のため、一部ご覧いただけない場合がございますことをあらかじめご了承ください）

PHOTO:スバルビジターセンターの展示コーナー

PHOTO:群馬製作所 矢島工場

PHOTO:矢島工場内の製造ライン

●ご見学日時

平成21年3月20日（祝日）11:00～16:00予定

●ご見学場所

群馬製作所矢島工場およびビジターセンター
所在地:群馬県太田市庄屋町1-1

●生産品目

レガシィ、インプレッサ、フォレスター、エクシーガ

●ご集合場所

東武伊勢崎線太田駅（浅草から特急りょうもう号で約1時間20分）

①当日は、東武伊勢崎線太田駅より送迎バスをご用意いたします。
②お車でお越しの株主様は矢島工場に直接おいでください。
③当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

●ご見学人数

50組100名様程度とさせていただきます。（株主ご本人様とご同伴者様1名様）

①ご希望者多数の場合は、誠に勝手ながら新規お申し込みの株主様を優先し、抽選とさせていただきますので、ご了承ください。
②当選、落選に関しましては、株主様ご本人に直接ご連絡し、当選の株主様には、当日の詳細をご案内いたします。

●お申込方法

官製ハガキに、株主様およびご同伴者様の①郵便番号②ご住所③お名前④交通手段（電車・車・その他）⑤電話番号⑥携帯電話番号⑦ご同伴者様とのご関係をご記入の上、以下の宛先までお送りください。
平成21年1月9日（金）の到着分をもって締め切りとさせていただきます。

●宛先

〒160-8316　東京都新宿区西新宿1-7-2
富士重工業（株）総務部「株主様工場見学会」係
TEL 03-3347-2012
ご不明な点は上記にお問い合わせください。

個人情報の取扱いについて

今回ご応募いただきました株主様およびご同伴者様の個人情報は、①本見学会の抽選、②当日の詳細に関するご連絡、③ご参加状況の確認、にのみ使用させていただき、当社が責任を持って管理し、使用後は廃棄いたします。また、いただいた個人情報を第三者に提供することはございません。

中間配当金

平成20年10月31日開催の取締役会において、当社定款第48条に基づき、平成20年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、以下のとおり中間配当の実施を決定しました。

1.中間配当金1株につき　4円50銭
2.支払請求権の効力発生日および支払い開始日　平成20年12月1日

株式事項

平成20年9月30日現在

●株式の総数

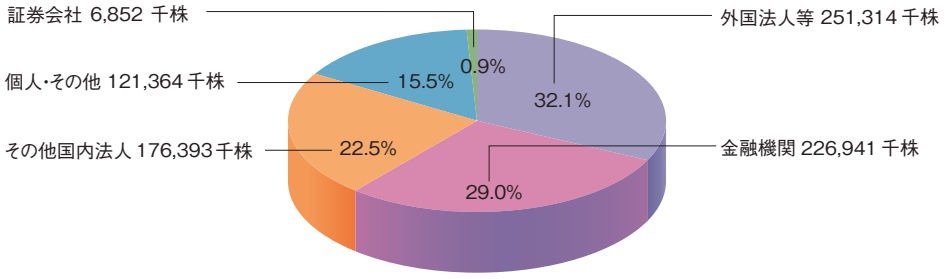
発行可能株式総数	1,500,000,000株
発行済株式の総数	782,865,873株
[注]当期中の増加	0株

●株主数　50,670名

●大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	30,598	3.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,211	3.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	21,659	2.77
ヒーロー.アンド.カンパニー	19,028	2.43
日本生命保険相互会社	15,986	2.04
スズキ株式会社	13,690	1.75
クレジット スイス ファースト ボストン ヨーロッパ ピービー セク アイエヌティ ノントリーティ クライエント	12,441	1.59
株式会社みずほコーポレート銀行	12,361	1.58
株式会社みずほ銀行	12,017	1.54

●株式の分布状況　合計782,865千株



[注1]「個人・その他」には、当社所有の自己株式3,269千株が含まれております。
[注2]「その他国内法人」には、実質株主名簿に記載されていない株式会社証券保管振替機構名義の株式13千株が含まれております。

役員

平成20年9月30日現在

代表取締役社長	森　郁夫
代表取締役副社長	小松　熙
代表取締役兼専務執行役員	髙木俊輔
取締役兼専務執行役員	及川博之
取締役兼専務執行役員	松尾則久
取締役兼専務執行役員	奥原一成
取締役兼専務執行役員	長門正貢
取締役兼専務執行役員	近藤　潤
常務執行役員	石原　卓
常務執行役員	星　恒憲
常務執行役員	蓮沼愛雄
常務執行役員	武藤直人
常務執行役員	吉永泰之
常務執行役員	馬渕　晃
常務執行役員	鴨川珠樹
執行役員	木村正一
執行役員	池田智彦
執行役員	日月丈志
執行役員	永野　尚
執行役員	高橋　充
執行役員	野村元晴
執行役員	宮脇基寿
執行役員	笠井雅博
執行役員	荒井直人
執行役員	上野康男
執行役員	小林英俊
執行役員	平川良夫
常勤監査役	街風武雄
常勤監査役	石丸雍二
☆常勤監査役	今井伸茂
☆監査役	宮川義一

[注]☆印は社外監査役であります。

[株主メモ]

決算期日	3月31日
基準日	
・定時株主総会の議決権	3月31日
・期末配当	3月31日
・中間配当金	9月30日
定時株主総会	6月中

株主名簿管理人
東京都中央区八重州一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所
東京都中央区八重州一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社　本店　証券代行部
[郵便物送付先・電話お問合せ先]
〒135-8722　東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社　証券代行部
電話　0120-288-324[フリーダイヤル]

同取次所
みずほ信託銀行株式会社　全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社　本店および全国各支店

[会社の概要]

社名	富士重工業株式会社
英文社名	FUJI HEAVY INDUSTRIES LTD.
創立	昭和28年7月15日
資本金	1,537億9,527万円
従業員数	12,267名
主要製品	普通・小型自動車、軽自動車、航空機、汎用エンジン、環境車両
本社	〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
代表電話	03-3347-2111

PHOTO:デックス 1.3i

富士重工業株式会社

〒160-8316　東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
電話 03-3347-2111
[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] http://www.fhi.co.jp/ir/index.html

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org　Cert no. SA-COC-001217
© 1996 Forest Stewardship Council